

の共有物として保存され、利用されることを期待して寄贈したということであった。この他、「京大俳句」「京都大学山岳部報告」京大探検部の「探検」、京都大学新聞社（学生団体）の「京都大学新聞」が寄贈されている。図書館としては、これらのサークルから継続して寄贈されなければ整理が不能であり、また、サークル誌を刊行されればどのサークルからも寄贈して頂くことを期待している。

ニ ュ ー ス

大閲覧室の冷房はじまる！

本館では大閲覧室で夏期にも快適な学習、読書の時間をすごして頂こうと、冷房設備の施工を急がせてきたが、いよいよ7月から運転を開始する準備がととのった。勿論潤沢に予算がある訳ではなく、どれほど快適度が増すかということは、一度来て見て頂いてのお楽しみというところだが、館としては少しでも快適になるものと信じている。なお、この冷房装置の取付け工事中、長期にわたり、大閲覧室利用者の方々に多くの迷惑をおかけしたことをこの紙上よりお詫びしておきたい。

展 観

○ エーリッヒ・ケストナー：その生涯と作品展

去る6月5日から2週間にわたって、ドイツの作家エーリッヒ・ケストナー(Erich Kästner 1899～)の著書約200点および、生涯の各時点における彼の写真を、本館陳列室において展観に供した。この展観は、本館の主催となっていたが、京都ゲーテ研究所と、日独文化研究所の後援によっておこなわれたものである。ケストナーは「ファビアン」(1931)で知られる諷刺作家で、現代のヴォルテールと称する人もある。

○ 世界理工学図書・雑誌展、日本理工学図書展 7月の6日から8日にかけて、出版文化国際交流会と本館の主催、外務省、文部省、京都新聞社の後援で、上記の展観が開催された。世界理工学図書・雑誌展の方に参加している国は、ベルギー、ノルウェー、西ドイツ、東ドイツ、ハンガリー、インド、イタリア、オランダ、フランス、ルーマニア、ソ連、スエーデン、スイス、英国、米国、アルゼンチンと、西欧、東欧を網羅し、図書も3,500点が展示され、それに日本のもの1,000点が加えられて非常に盛況であった。

あ と が き

長い日照りのあと、7月になってやっと梅雨にはいったのか、よく雨がふり、雷がなります。しかし、間もなく、青い空に雲の峯が立つことでしょう。本号の表紙も、涼を呼ぼうと、こんな色にしてみました。

図書館大閲覧室にもおくれればながら冷房がはいりましたが、何しろ建物の方が戦中派なので、窓枠などが20年の風雪に痛み、折角の冷気をのがさなければよいかと祈る次第。学内・外でたかまる図書の相互利用（他学部の人が、他学部の図書を使うこと）について、京大内部の実情を調べましたので、この一覧表について、あるいは相互利用をやってみられてお気づきの事がありましたらカウンターまでおしらせ下さい。

いよいよ夏休みです。海べで松の梢をすぎる風の音を聞きながら、また山小屋の窓辺で夕日をあびてなど、どうぞ読書をお楽しみ下さい。